

岐阜県の森林・林業

森の下より

●特集●

「森と木とのふれあいフェア2011」を開催

ご自由に
FREE
お持ち下さい

2011 December
No.699

12



岐阜県森林づくりキャラクター

山林協会ホームページ <http://www.g-forestry.or.jp>

社団法人 岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

Contents

2 ●特集●「森と木とのふれあいフェア2011」を開催
平成23年度森の名手・名人認定証伝達式が行われました

4 ●森の楽園の紹介(21) 釜ヶ谷雨乞いの森

4 ●投稿コーナー 何処へ 粥川眞策

5 ●山の歳時記(76) 正月の三階松

6 ●山のおじまむし(245) 絵になる写真、ホテルガ

7 ●森の名手・名人シリーズNo.22
感動～自然から感じるもの～ 名人:小林 繁

8 ●岐阜県立森林文化アカデミーの紹介(30)
森林文化アカデミーと飛騨の家具業界のつながり

10 ぎふ森林づくりサポートセンター Pick up Report

11 ●健全で豊かな森林づくりプロジェクト(54)

12 ●普及コーナー
欧州型道づくりに関する研修会を開催

13 ●研究コーナー
大型林業機械の林内走行による森林土壌への影響

14 ●技術支援担当コーナー
施業プランナー養成基礎研修 ～事業予定地発表会～

15 平成23年度全国治山林道工事等コンクール表彰式
開催される ～郡上市 林道維持管理部門で林野庁長官賞を受賞～

16 岐阜県森林技術師連絡協議会が森林整備ボランティア活動を実施

17 市況

19 掲示板



表紙 ● 森と木とのふれあいフェア2011(ウッドチップ広場)

「森と木とのふれあい
フェア2011」を開催

10月22日(土)・23日(日)の両日、岐阜県庁前芝生広場にて、毎年恒例の「森と木とのふれあいフェア2011」を開催しました。イベント広場や各出展ブースで、それぞれ工夫をこらした催しが行われ、2日間で延べ6万人の皆様にご来場いただき、当フェアを満喫していただくことができました。



ステージイベント

初日の開会式では、主催者の森林政部長、来賓の小川県議会農林委員長、共催者代表の矢口県森林組合連合会会長からのあいさつの後、森と木のイベントにちなみ鉈を使いテープカットを行いました。

その後、みのかもアルプホルンクラブによる「アルプホルンコンサート」が始まると、県産材で作った手作りのアルプホルンによる演奏が行われ、会場内には心安らぐ音色が広がり、癒しの空間に包まれました。ぎふの木を使った住宅の良さや意義についてPRを行う「ぎふの木・つかい隊」が、ダンスや木に関するO×クイズを行い、子どもたちは楽しみながら木の知識を深めていました。そして、毎年恒例となっています岐阜県健康キノコ振興会による「丸太早切り競争」にはペアで15組が参加し、優勝を目指した熱戦が繰り広げられました。



ぎふの木・つかい隊



“あすはちゃん”が来場



岐阜総合学園高校 太鼓部による 和太鼓演奏



アルプホルンコンサート

2日目は、岐阜総合学園高等学校太鼓部による和太鼓演奏が会場全体に勇壮な音を響かせ、ステージを幾重にも囲んだ来場者に感動を与えてくれました。その後、チェンソーアートKAZZによる「チェンソーアート」の迫力あるデモンストラーションに多くの来場者が圧倒されました。

フェアの最後には、(社)岐阜県山林協会の協力によりイベント広場に設置した丸太椅子117脚の抽選会が行われ、最後まで盛り上がりを見せていました。

各出展ブース

当フェアには、テントブース及びフリースペースに過去最高の57の団体に出演いただき、趣向をこらしたブースが並びました。今年、「震災復興・応援コーナー」を設け、東日本大震災の被災当時の状況と復興に向けての取り組みのパネル展示や、無料木造耐震相談、耐震住宅模型展示、岐阜県産直住宅協会が提案する応急仮設住宅の模型展示など、それぞれのブースで興味深く見学される姿が見受けられました。県内産の林産加工物などを販売する「森の恵み市場」では、県内産きのこの試食販売や、県産材加工商品の販売のほか、ベレットストーブの展示販売などを行い、大変な賑わいとなりました。このほか、親子木工教室やクラフト教室、木のおもちゃ体験、ウッドチップ広場、木製迷路、会場内で森の恵みを探すツアーなど体験型のブースには多くの子供達が楽しそうに参加してくれました。

初日に雨が降り、足元が悪い状況でしたが、多くの皆様にご来場いただきました。このフェアのイベントや出展を通じて、木の良さと木を利用することの大切さ、森と木への理解をたくさんの方々の来場者の皆様に深めてもらうことができました。

最後に当フェア開催にあたり、ステイジイベントにご協力いただいた各団体の皆様、また、各ブースの出展者の皆様、そして当フェアにご協賛をいただいた関係団体の皆様に、改めてお礼申し上げます。

【県産材流通課 日置欽昭】

● 詳しい内容が知りたい方は TEL(058)272-1111
 内線(3014) 県産材流通課まで

平成23年度森の名手・名人認定証伝達式が行われました

平成23年度森の名手・名人に認定された県内の2名に対し、(社)国土緑化推進機構から届いた認定証が10月21日、(社)岐阜県緑化推進委員会会長の藤墳 守岐県議会議長から伝達されました。



▲藤墳会長からお祝いの言葉を受けられる山田さん(左奥)と安江さん(左前)

【今年度森の名手・名人に認定されたみなさん】

森の恵み部門(シイタケ栽培)

本業市外山…**山田 多賀男**さん

59年間にわたり原木シイタケ栽培に取り組み、種菌生産、ジャンボシイタケ栽培、多孔栽培など新たな取り組みを展開し、卓越した技術とその普及について森の恵み部門において認められました。

森づくり(造林手(枝打ち))

加茂郡白川町上佐見…**安江 正行**さん

50年間にわたり通直・無節の東濃松の優良材生産に取り組み、自ら考案した木登り機を使った枝打ち技術を確立するなど、森づくり部門において卓越した技術が認められました。

「森の名手・名人」とは

森を護り、育て、その恵みを活かして持続的に循環させていくことの重要性を広く訴え、社会一般が更に森林と向き合っていく気運を醸成することを目的に、「もりのくに・にっぽん運動」が平成14年11月に開始されました。

(社)国土緑化推進機構ではこの運動のリーディングプロジェクトとして、平成14年以降、森や山に関わる樵、マタギ、炭焼きなどの生業においてすぐれた技を極め、他の模範となっている達人について、その内容により「森づくり」、「森の恵み」、「加工」、「森の伝承・文化」の4部門を設け、「森の名手・名人」として選定しています。

平成23年度
現在の認定状況

- 全国の認定者数…924名(本年度67名)
- 岐阜県の認定者数… 40名(本年度 2名)

※岐阜県の認定者数は、愛媛県の44名に次いで全国第2位となっています。



▲左から安江正行さん、藤墳 守会長、山田多賀男さん、森 林政部長



▲伊自良湖から釜ヶ谷山を望む

「釜ヶ谷雨乞いの森」は山県市伊自良地域の北西に位置し、平成10年に開園した生活環境保全林です。名称は干ばつに悩まされた人々が天に雨を願った伝説にちなんで名付けられたもので、園内にはお釜を伏せたような山容で、標高696mの「釜ヶ谷山」がそびえ、山頂まで3コースの歩道があり、自然豊かな森の中を山登りできます。あいにく今回の森林のたよりでは、山頂からの景色を紹介することはできませんでしたが、是非一度ご自分の足で冬の山の澄んだ空気を味わいながら山頂からの眺めを楽しまれてはいかがでしょうか。

釜ヶ谷雨乞いの森

森の楽園の紹介 21

県内各地にある森の楽園を紹介していきます。

岐阜農林事務所 ● 木田卓也

釜ヶ谷雨乞いの森MAP



● お問い合わせ
山県市産業建設部 産業振興課
TEL 058112216830

できます。ご家族やご友人と訪れてみてはいかがでしょうか。



▲歩道



▲案内看板

また、近接する伊自良湖や伊自良キャンプ場では、春には湖畔のサクラ並木、夏には川遊び、秋には紅葉狩り、冬にはワカサギ釣りが楽しめる、四季を通して自然を満喫することができます。



▲伊自良キャンプ場

何処へ

粥川眞策さん
 (元加子母村村長)

東日本の震災と原発事故の被災者のみなさんに、心からお見舞申し上げます。

さて話は中国の漢の時代です。

「股

くぐり」で有名な韓信が漢王の劉邦に向かつて「私が兵を動かせば多いほどうまく使います」とホラを吹きました。そこで劉邦が「俺ならどれくらいか」と尋ねると、「あなたなら十万です」と答えたので、劉邦が怒って「十万しか使えない者が國王で、幾らでも多く使う者が臣下とは何ごとだ」と言いました。韓信は「あなたを兵を使えば十万ですが、私のような將軍を使えば、多いほどよいのです」と答えました。

今回の東日本の震災も、担当大臣は劉邦のような存在です。韓信のような将たる人たちを上手に使うことが復興の鍵です。

今度の震災は、昭和二十年の敗戦を思い出させます。当時ほとんどの指導者は、戦犯や公職の追放を受けました。残ったのは、廢墟に立つて茫然自失した人たちでした。そこから復興が始まったのです。

戦争もそうでした。糧秣も火器も弾薬も尽きた中で、兵士たちはよく戦いました。これらの兵たちが、戦後の再建に活躍しました。

日本は危機に直面するたびに、大衆の力が物を言いますが、それは、小さな市町村単位で助け合う強い絆の世界です。

次は政治の流れを考えてみます。

「昭

和四十年ころの公共事業は、全て国の示すメニューの通りに、やらなければなりません。林構事業などもそうでした。

それが十年後になると、国のメニューにない仕事でも県と相談して陳情すると、採用してくれるようになりました。この頃になると、国には地方を育成しようとする流れが生じていたと思います。

その後十年あまり過ぎると、地方のアイデアを採用するようになりました。そして国土の均衡ある発展の下に、道路特定財源と交付税の増額が大きな役割を果たしてきました。

小泉さんはこの二つを潰してしまいました。私たちは大反対しましたが、小泉さんはその代りに市町村合併によって

地方が足腰を強くし、地方分権によって地方の振興を図ることにしました。

地方分権は、地方のことは地方に任せ、国は防衛、外交、教育など、国固有の範囲に行政をスリム化し、国会を改革して小さな政府とし、膨大な国の借金を減らすという改革の流れです。

この流れはどうなつたのでしょうか？重要案件の先送りを「日本病」というのですが、いま日本に日本病が蔓延しています。震災と原発で余力がないかもしませんが、それ以前の何年間、何をしていたのでしょうか。

次は外交の問題です。

「戦

争放棄は、外交で国を護るということです。

北方領土問題で、ロシアの大統領が投げ返してきた外交のボールを、日本の総理は投げ返しませんでした。

日本は昭和二十年の八月十四日にポツダム宣言を受諾し無条件降伏(白旗を揚げる)ことしました。翌十五日に陛下の詔勅で、地球の北から南までの全戦線が無条件降伏しました。これは世界史上例のないことと言われました。

外国では政府が白旗を揚げて、前線では暫く小競り合いが続くと言います。日本より前に、ドイツとイタリヤが降伏していますが、どちらの国も全戦線が同時に降伏したことはありません。

日本の軍隊は天皇の軍隊ですから、皇軍です。統帥権といって、軍隊を動かすのは陛下だけでした。だからツルの一声で何百万という軍隊が一斉に降伏し

たのです。

ソ連は八月九日、日本に攻めこんできました。日本が十四日にポツダム宣言を受諾したので、ソ連が戦争したのはたった六日間です。このたった六日間に、ソ連は南樺太を取り返し、千島を取ってしまいました。千島は日本の固有領土です。また北方四島は日本が降伏した後ソ連兵が入ってきたのです。

世界の常識に従えば、戦争で降伏すると戦線は凍結され停戦します。ロシアの軍隊は、停戦して白旗を揚げた日本の軍隊を攻めて北方四島を取ったと言っていますから、不法行為にあたります。

またロシアは九月二日の降伏調印式で戦争がすんだと言うなら、なぜシベリアへ連行した日本兵を帰してくれなかったのでしょうか。

「口

シアの大統領が投げ返してきたボールは、日本にとって外交的に絶好のチャンスを与えてくれましたが見逃しの三振でした。

総理は中国に対してもだんまり外交ですから、これが一番いい外交と思っただけかもしれませんが、私たちには訳の分からない外交でした。新しい内閣に期待するところ、大なるものがあります。

◆投稿記事を募集中!

林業知識や森林に関するメッセージなど皆様の投稿をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。

(社)岐阜県山林協会 担当: 山口
 0588-2731-7666

正月の三階松

樹木医・全国森林インストラクター会 理事 川尻 秀樹

毎年、年末には山でアカマツの小枝を採ってくる。それが師走の私の役目です。

県内では松飾りにアカマツを多く使いますが、マツは一年中濃い緑の葉を茂らせ、厳しい風雪に耐える「精霊」の宿る神聖な植物、長寿や節操の象徴、若さや不老長寿の象徴として尊ばれました。

さて、このマツの語源は、神が天降られるのを「待つ」、「神を祀る木」から転じた、他にも葉が二股になる「股」が転じたなど様々です。

日本の自然神道ではいくつかの常緑樹を「神の憑代」として崇めました。特にマツは、一年中濃い緑を保ち、厳しい風雪に耐えて荒れた土地でも枯れずに育つ「百木の長」として、緑を保ち操正しく生きる「貞木」として、また永遠の若さや豊穣を象徴する樹木として尊ばれ、門口や家の門を意味する南側の庭に飾られたのです。

「松」の文字が記された日本の最古の文献は『古事記』とされ、景行天皇の条に「日本武尊が尾津の岬の一本松の下で食事された時に忘れた太刀が、無くなることなく残っていた」ことをほめた歌が記されているそうです。

漢字の「松」は「公」が「表向き、おおよけ、目立つ」などの意味を持ち、山の尾根の目立つところに生育することを

▼枝が3段になった三階松



意味するためとか、「公」の古字は「八」の下に「白」と書き、中国の占いの陰陽で「八・白」は八白土星の性質を持ち、将来性のある子供に見立てられたという説もあります。こうした「松」の漢字が後継ぎを重視する平安貴族などにもてはやされて、正月の最初の「子の日」に小マツを引いて自分の庭に植え、あとつぎの生長を祈願する習慣となつたと考えられています。

そして門松や松飾りは、マツの枝を門戸に挿して長寿を願った中国唐代の習慣が伝わったとする説や、素戔鳴尊が巨旦将来を成敗した時に、墓前に立てたものが基になったとする説、他にも日本古来の自然神道の一つ「樹木信仰」が発祥とする説などがあります。

一般家庭では、玄関などに門松の簡略形として「三階松」を飾りました。この三階松は、マツの枝が三段になった切り枝です。日本人は「三」という数

字を好む傾向があり、例えば「三種の神器、日本三景、三冠王」など、奇数でくくる文化と歴史を持っています。三階松はその形が、神や仏の宿り易い形として、多くの寺社が神紋や寺紋、家紋、能装束、留袖や振袖、帯の他、絵紵などにも使われています。

他にも三階松ではありませんが、京都の旧家や料亭などでは樹木そのものに神霊が宿るといふ考えから、切り枝ではなく根がついたままの「根引きのマツ（クロマツが多い）」を飾ります。

アカマツは青森県下北半島〜鹿児島県屋久島までの冷温帯〜暖温帯にかけて分布し、主に尾根筋などで生育し、垂直分布では内陸部の丘陵帯〜海拔2,000m付近の山地帯に生育しています。一方クロマツは、下北半島〜鹿児島県トカラ列島まで分布し、アカマツとは異なり沿岸地域で生育することが多く、垂直分布は主に0〜500mまでの丘陵地です。

マツは日本人にとって、正月飾りなどに使われ、日本文化の様々な場面で取り入れられた馴染みある樹種ですが、日本中に繁茂したのは約1,500年前と意外な側面もあります。

マツは日本人の生活文化の中に深くとけ込んだ樹種であり、毎年師走になるたびに、あわてふためきながら三階松を探す私なのです。



山のおじゃまむし



— 絵になる写真、ホタルガ — 【第245回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

還暦を過ぎると体力が低下する。よく耳にする言葉だ。しかし、自分には無縁と気にもしなかったが、60半ばからこの言葉を肌で感じるようになってきた。そこで始めたのが自宅近くにある伊木山歩き。しかし、ただ歩くのはつまらないとカメラを持参。昆虫の生態を観察し、それを写真におさめるという一石二鳥の山歩きだ。これが楽しい。いや、身近にいる昆虫の知らなかったことを目にするのができ、勉強になった。例えば、超猛暑だった昨年はアブラゼミがたくさん地面に落ちて死んでいた。これは熱中症だ。「これに違いない」と決めつけた。それが今年は1匹のみ。やはり熱中症だったとニヤニヤする自分。こんなことを観察しながらの山歩き。今は山歩きを楽しみながら体力の低下を防いでいるという現状だ。今年

もいろいろな虫をカメラにおさめた。しかし、私の写真はどの虫も大写しにただけの味気ないもの。ところが今年撮った写真の中には自慢作がある。ホタルガだ。カメラから覗いたホタルガは絵になる被写



▲絵になる被写体 ホタルガ

体だ。それとこの虫の変わった生活。カメラをとおして垣間見ることができた。今回は絵になる虫、ホタルガの話。

ホタルガは蛾の一種である。黒い翅に白い帯のあるきれいな蛾だ。ホタルガが活動するのは昼間。夏になると林間を弱々しく飛び回る。私はこの蛾を何十年も前から見ているが、どんな生活をしているのかは知らない。蛾に興味がないから調べようともしなかったのである。そのホタルガが8月後半から目に入るようになった。しかし、数は少ない。一日10匹前後だ。この蛾を写そうとカメラを向けたものの、すぐに逃げられる。この繰り返しでよい写真が撮れなかった。9月になると急に増えてきた。5、6匹、時には10匹以上で飛び回っているのが見られた。ところがホタルガのいるのは山の下側で、尾根部にはいなかった。ある日、2匹が並んで木の葉に止まった。カメラを向けたら強い風が吹き付けた。枝がゆれてシャッターが押せなかった。この風では二匹とも吹き飛ばされると思った。ところが飛ばされなかった。必死にしがみついているのである。葉の表面はつつるしているのに、なぜ、足に吸盤がついているのではないのか。こんなこと

を思った。ホタルガを図鑑で調べた。この蛾は体が黒くて頭が赤。蛭と同じなのでホタルガ。これが名前の由来である。その蛭は体から悪臭をだすので鳥が嫌がる。その蛭に似せて鳥からの攻撃を逃れているのだという。なるほど。そうだったのか。

10月になるとものすごい数になった。といっても山裾の道路際の短い区間だけ。そこを歩くと足音に驚いて一斉に飛び立つホタルガ。そしてすぐに木の葉に静止。これが絵になる光景で、圧巻だった。無意識にカメラを向けてしまう。絵になる写真が何枚も撮れた。道路には車にひかれ無残な姿と化したホタルガ。林内に入れば女郎蜘蛛の巣にかかっているもの。これがあちこちで見られた。女郎蜘蛛はホタルガを標的にしている。そんなふうにも思えた。カマキリの鎌で挟まれ餌食となっているものもいた。カエルやトカゲもいた。ひょっとしたらこれらの餌となっているのではないのか。こんなことも思った。弱肉強食の自然界の厳しい営み。この狭い空間でも垣間見られた。ホタルガがこれだけ多ければ当然小鳥が狙うはず。しかし、いない。やはり蛭に似ている効果なのかなと思った。近くで畑作業をしている人が話しかけてきた。「すごい数の虫やね。何匹くらいいる？」私は「300匹いや400匹くらいかな」と答えたが自信がなかった。そこで、道路を歩いて歩数とホタルガの数を数えた。歩数が227でホタルガが682匹。私の歩幅が45センチなので100mの区間に700匹ほどいたことになる。これはすごい。私は唖然とした。

二日後に激しい雨となった。この雨でホタルガはどうなるか。これが気がかりだった。三日後に天候が回復したのでその場所へ出かけた。また、唖然とした。あれだけいたのが数匹しかいないのである。雨で死亡したのだろうか。いや違う。雨くらいで死亡しては自然界を生きていけるはずがない。では、なぜいなくなったのか。狐につままれたようであった。その後、何回か出かけたが数は増えることなく、10月下旬にはまったくいなくなってしまう。昆虫類が突然大発生することはよくある。しかし、突如姿を消すことはほとんど聞かない。では、なぜホタルガはあの狭い場所だけにたくさんいて、急にいなくなったのか。なぜだ。またまた昆虫の世界の奥深さを痛感した。今回、ホタルガだけで何十枚も写した。どれも傑作だと自画自賛。特に、木の葉に止まっている十数匹のホタルガは絵になる写真だ。何回見ても見飽きることはない。そうだ、この写真を蛾マニアのF氏に見せて自慢しなくちゃ。



名人 小林

繁(70) 岐阜県高山市

聞き手 田口 克大 岐阜県立加茂農林高等学校2年

平成19年取材

感動 自然から感じるもの

▼小林 繁さん



「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもつてその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約1000名が選定されています。岐阜県においては、現在38名の「森の名手・名人」がいます。
この「森の名手・名人」を「森の聞き書き甲子園」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

1. 名人の知識

僕はもともと、この山の一軒の宿の長男でここを守らなきゃいけないかった。昔は大変だった。こんな所、道もこんな良くなかったですよ。だけどこんな不便な所で生きていかなきゃならないから、自然のことを色々勉強したんですよ。僕は本来料理人なんですよ。で、料理するなら山菜をやるうって事で、岐阜、京都で料理の修業したんですよ。それから、山菜とか山のもの勉強したんですよ。

一番のポイントはねえ、先人、昔の人達。彼らも勉強したことじゃなくて、山で体験したことなんです。聞いてみると、科学的なこといろいろんなことも、なんか結びついてくるものがあるんですよ。

この植物はおいしいけど、こっちは毒があるってことまで全部知ってる。これは薬草やとか。キハダは苦くて、煮詰めて乾燥して丸めておけば百草丸になるとか。セブリって言う葉がある。

2. 氷点下の森

風邪とか胃にもものすごい良い薬。こっちの林道にもものすごいあつて、それを根から取る。ところがねえ、根から取ってしまつたら無くなつてしまふから、上の方にあるのは全部残して、下のやつだけ取ってくるわけよ。そういうのは凄く知恵袋なんだな。それを僕らが受け継いでみんなに伝えていきたいなって思ってるんですよ。

氷作るきつかけつていうのは、山んなかで、なんにもないがね。お客さん冬になんか誰も来ないよ。で、そんな山んなかで、生きていくにはどうするかで、じゃあ変わったもんなんかないかやろうと考えて。スキー場とかスケートとか、そういうもの考えたけど、結局金がかかるとか、こんなことしかできないなと思いがから、まて氷を作るつていう。森の中に2月から3月あたりに、ブルーになる美しい氷がある。そのことを思い出して、あーいう氷を作つてみよ

うつてやつたんですよ。最初から俺が運が良かったのが、テレビから新聞、全部第一回からずーっとニュースに扱ってくれたこと。半面馬鹿げたような氷を作っておかしなことやってるけど、報道が取りあげてくれると、良い方に変わってくるんだよね。自信があつてもやっぱり寒い山んな中で氷を作っているおかしな人と思わんわね。でもあきらめずに作つていったのが、まあ今は、全国レベルに認められるようになったんだけどね。氷を作っているところは氷だけ。広葉樹を綺麗にみせて感動させようとか、いろんなところに段々発展していつて。で、冬の寒いでシャボン玉とばして凍らせようとか。

最初の頃は、なかなか誰もやつてないことだから、参考書あるわけじゃない



▲苦労して作り上げた氷点下の森

し、大変だったですよ。みんな酒飲んでそれから外へ出て行くもんで、寒さの中に。その時は夢中でやつていたんだけど、水のトラブルが発生して、きつとやつたつもりがね。水の取り入れ口について水をとりいれてくるわけよ。オッケーかと思つたらまた失敗でまたとめについて、また修理して。自分の子が山にむかつていくわけよ、2人で。吹雪の中でねえ、子供の姿が段々消えていくの見とつたら、ホント涙でたよ。俺がこんなことやって子供達に苦労させてんだなど、感動したんや無くてもう、あーっつんでもないことやつてんだなって。

3. 自然は素晴らしいドクター

この言葉が僕に生きてるんですよ。ここへ来る人は皆、失礼な言い方かもしれないけど、患者さんなんです。コンピュータだなんだで自然との関係崩壊。疲れきつて自然のドクターのところへ来た人たちだから、私はここに住んでる人として受け入れて、ナースとしていろいろ話したりすることによって、皆が元気ついていくという。そういう立場で使命として、岩石や地質、昆虫、植物も勉強して、自分で考えて先人の知恵を借りて、仲間を森を守っているんだ。守るだけは誰でもできるからねえ。守るためには、多くの人に感動を与えて、感動から、そうかとか、ああやらないかやないかってこと導いていく。そのつなぎが僕の立場だろうと思つてやつているんですよ。

私はここで生まれてるから、自分の里に自信を持つてる。自分の故郷に自信を持ってないと、何見ても良いものには見えないよね。でも、ここはやっぱりすごいと思つたら、全部良いものに見えてくる。自然は素晴らしいドクター、そして俺はナースとして、都会から来た人みんなに自分の知識を話しながら感動してもらつて、感動で人間関係、自然関係を作つてほしい。



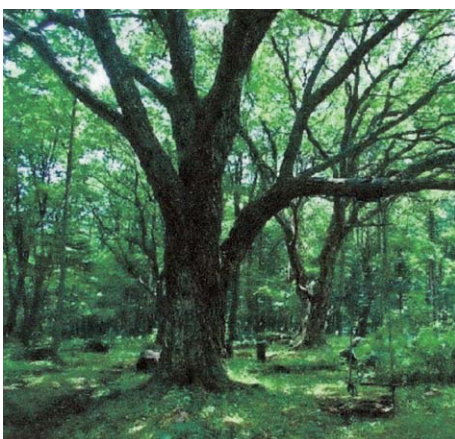
▲地元小学生を対象とした動植物及び木の木の観察会

4. ミストの森

今年、猛暑と気象庁で発表されていたから、涼しい森ならと思って「ミストの森」という名前で一応やっただけです。森の小川の上でホースを引いてきて、ホースに穴を開けて高いところから水を撒く。すると冷たい水が降るんだけど、落ちるときに森の温度を下げて、涼しくなるといいます。そしてその水滴は小川だけじゃなくて周囲にも落ちるから、石とかに苔が生えて綺麗になるだろうと。それをやったらすごく好評だったんですよ。それに葉草がいろいろあるから、葉草茶を作って、冷たい小川で冷やして飲んだら面白いな。で、健康のためにも良いし、飲むということも心が和らぐから、精神的にも良いわけ。涼しくて、感動して。それが森のドクターであるというわけ。

5. 散歩村

そもそも昔の人は、食べるものも栄養とか



▲周辺の森林を守り続けてきた

関係ないんだね。だから細々と自給する。栄養を葉草茶とかで補って、元気になって働いてたんだから。これも先人の知恵やね。それを今我々が、豊かな生活の中でふと振り返って、森の中で葉草茶を飲みながら、涼しいね、緑が良いね、なんか言いながら昔の賢い生き方を分かってもらおう。そういう流れをやっているのが散歩村というもの。

散歩村の中には、大きな木があり、横たわっている木があり、ブランコなんかもある木の枝にくっついてるんですよ。家族でお客さんがきて、子どもがおおかた一日中そこで遊んでいてね。食事したらもう寝ちゃったっていう。疲れきつてね。親は大喜びでね。こんなに夢中になり、こんな疲れた子どもの寝顔を初めて見た。この森の中には細かい道路がいろいろあるんですよ。それぞれ変わったところを歩けるようにね。この森はどこを見ても木漏れ日が入ってるんですよ。全体にくまなく太陽の光が照る。だからこの植物はみんな元気。すべての植物が花を咲かしている。最近困るのはイノシシがきてねえ、花を食っちゃうんですよ。その周囲のものも全部食っちゃうからねえ。植物が傷んだら枯れちゃうんだよね。

6. 山にいるものの使命

栗の実是非常に小さいけど、非常においしくてね。これを煮てお客さんに出すんですよ。僕は色々な見方をしているんだけど。例えばみんなは、でかい栗を拾っていくわけよね。だけど、栗には栗になれない栗もあるんですよ。これを何かにできないかと思ってここに爪楊枝を刺すと、スプーンになるんですよ。いろいろな木があるからこれに刺したらかっこいい。みんなが「うわぁ素敵」っていうわけやね。僕は山にいるから、山のもの大切にしないといけない。利用しなきゃいけない。無駄なものを、無駄じゃないように使つてやるっていうのも大切なこと。自然の中の恵みをちゃんと使つて、それを見ていただいて、感動してもらおう。感動が大事なんですよ。理解する前に感動したら理解できるんですよ。そこに来た人をどういう風に感動させ、理解させるかが山の中にあるものの使命。

今年、大きなミズナラの木が倒れた。コースのところに倒れたから、伐らなきゃいけないけど、その木をちよつと持ち上げると、その下が通れるようになるわけやね。すると「俺は疲れ切つてどうとう倒れたよ」と、木の声が。じゃあ今度、僕のほうから「みんなこの木にパワーをやるよ。そうすれば生きられるんだよ」というと、みんなそういう気になってくれて、「元気になれ」とか「頑張れよ」とかというわけやね。そうすると、ミズナラの木の肌の感触が分かるわね。触れた人が、俺はパワーをやったんだっていう、木に対する愛情じゃないけど、つながりがあるでしょ。で、自然の触れ合いに導くためには、この木を枯らしたり伐つたりしちゃいけないの。不思議な木とのつながりができるんだよね。そういうふうにして森に来た人に何かちよつと違うものを感じてもらおうとして木を持ち上げて。そしたら、そのまま生きてる。枯れるはずが、枯れない。そういうこと



▲ツリークライミングの活動を指示している(カサをかぶっているのが小林氏)

名人 小林繁さんのプロフィール

- 生年月日：昭和12年10月29日生まれ
- 出身地：岐阜県高山市朝日町
- 職業：旅館業

高山市朝日町の秋神温泉旅館を経営する傍ら広葉樹林を利用した散策コースガイドや小学校児童の交流会ツリークライミング教室、氷点下の森など様々な森に関わる活動を積極的に開催している。また、後継者の育成にも日々力を注ぎ指導をしている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。
【森の名手・名人編集担当】

(社)岐阜県緑化推進委員会 佐藤正吉

森林文化アカデミーと 飛騨の家具業界のつながり

岐阜県立森林文化アカデミー
久津輪 雅

美濃にある森林文化アカデミーには2001年の開学以来、「ものづくり」という講座があります。地域の森から出る材料を生かして木工品の企画・デザイン・制作を行い「森とものをつなぐ」活動を展開する人材や、木工プログラムを組み立てて「森と人をつなぐ」教育活動を展開する人材を育てています。一方、飛騨地方は古くから優れた木工技術が伝わる地域であり、現代では脚物(椅子・テーブル等)を中心とした日本有数の家具産地です。開学から10年を経て、森林文化アカデミーと飛騨の家具業界の間にはさまざまなつながりが生まれています。今回はその一端をご紹介します。

今年からクリエイター科(林業再生、山村づくり、木造建築、ものづくり)の学生たちは入学後1ヶ月間、共通の授業を受けることになりました。川上から川下までの総合的な学習、その名も「森林から木材、暮らしへ」という授業です。この授業の一環で、飛騨の家具メーカーを見学しました。見学させていただいたのは、いちばんの老舗であり最大手の飛騨産業株式会社です。高山では1920(大正9)年にドイツから伝わった曲げ木技術を用いて、豊富にあったブナで椅子を作ったことから、洋家具産地としての歴史が始まりました。91年を経た今も飛騨が家具産地であることは変わりませんが、大きく変わったのは材料です。ブナやナラなど豊富にあった家具用材は今や枯渇し、大半を海外から輸入しているのが現状です。そんな中、飛騨産業では協同組合をつくり、豊富にあるスギを圧縮して活用する技術を研究開発してきました。10年間の研究の末、フローリング材や家具用材など用途に応じた硬さや好みの形に圧縮することが可能になったそうです。荒廃する森林の問題にもものづくりの技術で貢献する取り組みに、学生たちも感心していました。

(なお飛騨産業では、去年から高山市荘川で企業の森づくり活動も始めており、森林文化アカデミーの横井秀一教授もアドバイザーとして関わっています。)



▲飛騨産業で杉の圧縮技術の説明を受ける学生たち

大手家具メーカーでつくる飛騨木工連合会では毎年、「暮らしと家具の祭典」という新作見本市を開いています。この見本市会場で、今年は飛騨木工連合会と森林文化アカデミーによる「グリーンウッドワーク」の実演が行われました。グリーンウッドワークとは、「人力の道具を用いて、伐ったばかりの生木を削って小物や家具をつくる木工」のことで、森林文化アカデミーでは教育に取り入れています。最先端の機械で家具を量産する飛騨のメーカーが、昔ながらの人力の木工を実演することになったのは、去年、職人向けに行われた技術研修がきっかけでした。グリーンウッドワークは言わば「木工のルーツ」であり、職人の技術研修に取り入れたいとご相談をいただき、森林文化アカデミーで研修を実施しました。それが好評だったことから、今年は見本市会場での実演になったのです。

会場では、各企業のベテラン職人さんたちが丸太からの椅子づくりに取り組みました。来場者はもちろんのこと、飛騨木工連の各メーカーの会長さん、社長さんも「これは面白い」と興味深げに眺めたり、実際に体験したりしていました。これからも森林文化アカデミーでは、飛騨木工連合会のグリーンウッドワーク研修に協力していくことにしています。まさに「森林文化」を伝える学校ならではの、地場産業への協力ができました。



▲足踏みろくろを楽しむ、岡田賛三・飛騨木工連合会代表理事



その他、毎年10月末に家具業界も協力して行われる「飛騨高山・秋の文化産業フェスティバル」では、森林文化アカデミーのものづくり講座の学生たちが作品を展示したり、卒業生が木工講座を実施しています。

今年は飛騨の家具メーカーから内定を得て、来春の就職へ向けて木工技術を磨いている学生もいます。これからも飛騨の家具業界と森林文化アカデミーのつながりは、より深まっていきそうです。

★森林文化アカデミーのクリエイター科・エンジニア科の平成24年度新入学試験出願を、**1月4日(水)から1月18日(水)まで受付ています。**

●詳しい内容が知りたい方は
TEL(0575)35-2525 森林文化アカデミー管理課 まで



ぎふ森林づくりサポートセンター(サポセン)は、岐阜の森林づくり、里山保全整備、木育、森林環境教育などの活動を支援し、情報発信、講座やイベントの実施、交流の場づくり等を行う、「ぎふの森林づくり総合窓口」です。

県内の森林づくり、木育、環境教育の活動をブログで紹介していますが、ピックアップして紹介します。続きが気になる方はぜひブログをご覧ください!

ふるさと栃尾里山倶楽部の 広葉樹の森林づくり活動を応援!

郡上市明宝・二間手で行われた、ふるさと栃尾里山倶楽部主催による「栃尾里人塾」に参加してきました。現在、この地域をこよなく愛する18名とその家族が、「森」、「農」、「自然エネルギー」という3つのテーマを掲げ、都会の人の力も借りた週末倶楽部活動(5月から10月の第四土日)を開催しています。この日は、「かなぎ(広葉樹)の森づくり」がスタートし、その第一歩、かなぎの「幼木」、赤ちゃん探し。地元の幼木を育て、山に還すという試みです。課題は多くあるものの、「自分たちの里の山を自分たちで何とかしていこう」と、活動しています。



子どもたちが大人になうるとき、そこにはいい森があるよ

武儀東小学校で モデル木育教室を開催!

関市の武儀東小学校で3年生15人を対象としたモデル木育教室が開催されました。講師は岐阜県木育推進員の「ぷーさん」こと上村さん。木のお話のあと、裏山で採ってきたヒノキでマイはしづくり。「木が道具になることによって、新しい命が吹き込まれます」と説明すると、「ずっと大切にしていきたい」という感想が。自分でつくった箸で食べる給食は格別な味だったのではないのでしょうか。



↓生きていた樹が材料としての木となる工程を実際に見てもらいました。

職人みたい!?

もうちょっと削ったほうが食べやすいかな

『林業女子会@岐阜イベント・森女カフェ』を応援!

今年8月8日、ぎふ山の日。林業の魅力を多くの人たちに伝えたい!という想いのもと、岐阜県森林文化アカデミー学生が中心となって林業女子会@岐阜が発足し、10月末には、サポセンも共催して、女子限定/森のイベントが開催されました! その名も「森女(もによ)Cafe」。内容は、アカデミー演習林での伐採体験、鹿肉を利用したカレーライス、「林業女子すごろく」、そしておやつタイム。盛りだくさんです。気になった方はぜひブログをチェック!



女子の方で林業の魅力を伝えたい!女子と林業をつなげたい!

ファーストスプーン木育講座 好評実施中!

サポセンでは、「あかちゃんとおかあさんおとうさんのためのファーストスプーン木育講座」を県内10箇所で開催しています。「生まれてくる子どもの記念になる作品ができて満足」「赤ちゃんを想って何かを形にできるのは幸せ。大切に使い続けると思う」などの感想をいただいています。

まだ参加者募集中の会場は以下のとおりです。ぜひどうぞ!

- 1月21日(土) 日本まん真ん中センター(郡上市美並町)
- 2月 4日(土) 岐阜産業会館(岐阜市六条南)



スプーンと一緒に笑顔が出来ます。

夫婦で協力して楽しく!

ブログ絶好調更新中! メルマガ登録随時受付中!

詳しくはホームページを検索してください!

ぎふ 森林 サポセン

検索

健全で豊かな森林づくりプロジェクト 54

森への道が無ければ、幾ら高性能な林業機械であっても活躍することは困難ですが、道があれば森林所有者は気軽に森を訪問出来るため、森への関心は自然と高まり、さらには傾斜の緩い良く開けた道の上では、森林作業員が効率的に、そして安全に作業を行うことも可能になります。

森の中に道をつくることは、その苦勞に見合うだけのたくさんの価値を私たちに与えてくれるのです。

目から鱗のアドバイスが連発？

「実は私たちも最初は皆さんと全く同じ気持ちでした。でも騙されたと思って一度やってみて下さい。そうすれば私たちの言っていることがよく分かると思います」とは、北海道から招聘した講師のコメント。

今回の森林のたよりでは、前号に引き続き「欧州型道づくり研修会」をご紹介しますが、午後から森プロモデル団地で開催された現地研修は、「目から鱗のアドバイスが連発」というよりも、「なるほど、言われればその通り」というものばかりでした。

ベルトをしてサスペンダー??

現地研修は、たかやま林業・建設業協同組合の松本課長によるパネルを使った森プロモデル団地の概要説明に始まり、開設した作業道を講師の皆さんと一緒に踏査しつつ、排水処理方法等を中心に現場の改善点をアドバイスしていただきました。

講師らは自ら試行し、その結果に満足しているため、何れのアドバイスも説得力に満ちあふれています。

例えば、路面排水を処理するために設置してあった二次製品を引き合いに出し、「フォレスターからは、屋根型構造の道は路盤自体が排水機能を持っているため、改めて構造物や土盛りによる排水処理は必要無いこと、むしろ路面上の構造物は維持管理の妨げとなる等の指導を受けた」ことをご紹介します。



屋根型路盤に排水処理用の二次製品(鶴居村)

しかし鶴居村でも最初から全面的にはフォレスターのアドバイスが納得出来なかったため、保険の意味合いで屋根型構造の道に排水構造物を設置してみたそうです。(写真)

そして後日、現場を再訪問したフォレスターからは、「我々のアドバイスを信用できないのか?これではベルトを締めてサスペンダーをするのと同じ。しかも美しくない」とのコメントを頂戴してしまいました。

確かに日雨量58mmの翌日、現場を訪問してみると路面は全く洗掘されておらず、フォレスターのアドバイスの確かさに得心したそうです。

さらに後日談として、路盤の維持管理のためにトラクター後部に設置した排土板を使って路盤砂利を敷き均そうとすると、排水用構造物を保護するために、約30m間隔で毎回トラクターの速度を緩めて排土板を持ち上げ、通過後に再び排土板を降ろす作業を繰り返すことが必要になり、作業の効率性が大幅に落ちてしまうといった諸課題を痛感し、以後、鶴居村ではフォレスターのアドバイスを踏まえて、道づくりは出来る限り自然素材を多用することを心がけるようになったとのこと。

このほか活発な議論の応酬があったのは、谷部流水の排水方法です。講師からは、排水処理の基本として「水の流速を落とすことが重要」という説明があり、現場に設置された暗渠を例に取り、「集水する山側部分は暗渠よりも低く掘り下げ堆砂用の穴を設けること、集水部分は維持管理(排砂)を考え出来るだけ広く設置すること、流速を下げ堆砂を促進するために、集水部分の形状を「ひょうたん型」とするのが望ましいこと、施工は資材費削減と維持管理の容易さを考え、大きめの自然石を並べて作ると良い」といった具体的な対策をご紹介します。

以上、今回は現地研修について極々簡単にご紹介しましたが、このほかにもたくさんのアドバイスを頂戴しましたので、ご興味のある人は是非とも現場を訪問し、実物をご覧になることをお勧めします。

女性の美的感覚と道づくり

ところで話は少し横へ逸れますが、毎回こうした研修で感じるのは、「女性が本当に少ない」ということ。

日欧の違いを問わず、林業の世界は今なお紛れもない男性中心の社会ですから仕方ありませんが、世の中の半分は女性なのですから、今後は『女性が見ても美しいと思える道づくり』という観点を持つことも必要になってくると考えられます。

「女性を大切に」実はこれもまた、フォレスターからのアドバイスの一つなのです。

【県産材流通課 中村幹広】

●詳しい内容が知りたい方は

TEL(058)272-1111 内線(3016) 県産材流通課まで



普及コーナー

欧州型道づくりに関する研修会を開催

― チャレンジ 屋根型構造の道づくり ― 飛騨農林事務所 林業普及指導員 ● 中谷和司

たかやま林業・建設業協同組合が、高山市清見町夏麻地内の森プロ事業地内の県有林内で、欧州型(屋根型構造)の道づくりにチャレンジしています。百聞は一見にしかず、北海道鶴居村(本誌9月・12月号掲載)健全で豊かな森づくりプロジェクト「参照」を視察しましたが、見ると行うでも大違い、実際の施工となると分からないことだらけです。そこで今回、北海道鶴居村森林組合の松井組合長と門間森林整備課長、北海道釧路総合振興局で林道を担当する小笠原係長を講師に迎え、欧州型道づくりに関する研修会を開催しました。

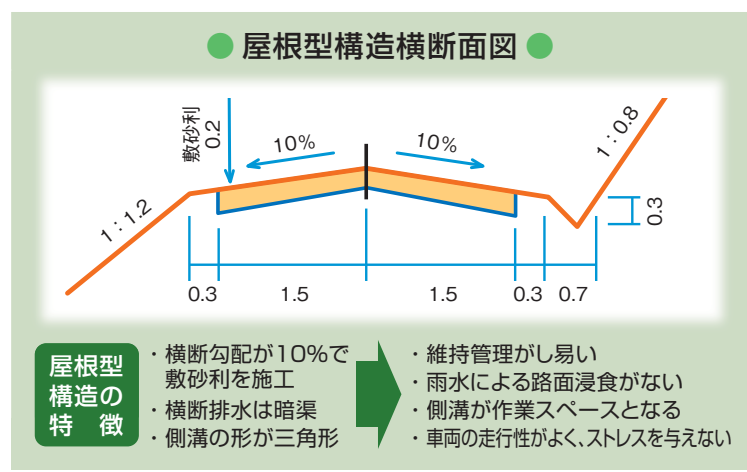
社会の流れ

当 管内では、森プロの実施により素材生産が飛躍的に伸びてきています。国内外を問わず社会情勢の変化や政策・制度が急変するなかで、環境に配慮した効率的かつ持続可能な森林・林業が強く要求されています。

また、ここ一・二年全国的に欧州型林業への関心が高まり、欧州への視察、欧州型の作業システムの実践、欧州の指導者を招聘しての研修会等が全国各地で開催され、林業再生プランへの取り組みが、加速度を増しています。森林・林業を取り巻く情勢の変化に対応し生き残りを図って行くには、社会の流れに乗り、既存概念にとらわれることなく進化していかなければなりません。

欧州型道づくりに関する研修会

「森 づくりは道づくりから」国際価格と高くなった材価の下では、道がなければ林業は語れません。今回は、欧州で推奨されて



いる屋根型構造の道づくりと将来の木施業による恒続林について、北海道鶴居村の実践紹介(座学)と作業道開設現場および森プロ事業地において現地研修を開催しました。

研修参加者の感想

屋根型構造の道づくり

- ・側溝を設置すると急峻な地形では切りが高くなり現実的でない。また、施工費が高くなる。
- ・屋根型の路面成形は、施工が難しい。また、専用の機材が必要。
- ・20年以上作業道を作ってきた。現状の道づくりでも路面洗掘はなく、何ら支障がないので、あえて導入の必要がない。
- ・屋根型構造の作業道の一部であるが見ることができた。



▲作業道開設現地研修状況

森づくりのヒント

- ・施工経験のある講師のため、説明が具体的でわかりやすかった。
- ・実施してみればじめて理解できた。見たことも施工したこともないことを、机上で議論しても意味がないと思った。

将来の木施業という考え方をはじめて知った。
 森林土壌へのダメージについて考えたことが無かった。
 目先のコストだけにとらわれず、将来像を見据えた上で取り組むことも必要と思った。



▲森づくり現地研修状況

これからの方向性

欧 州型の道づくり・森づくりについては、地形・風土が異なる日本では受け入れがたいことは確かです。

しかし、日本の30年先に行く欧州林業に学ぶべき点は、大いにあるはず。森林・林業の再生には、革新的な取り組みが必要で、それを阻害する既存概念にとらわれることなくチャレンジしていくことも重要です。今後も機会あるごとにこうした取り組みを実施していきます。

詳しい内容が知りたい方は
TEL(0577)33-11111
 内線(491) 飛騨農林事務所まで

ここ数年、県内への大型林業機械の導入が進みました。作業道の開設も各地で行われ、作業道沿いの傾斜が緩やかなところは、直接森林内に入つて木寄せを行う事もあつたのではないのでしょうか。

ドイツフォレスターを招いての森林づくり研修会が各地で行われていますが、彼らは林内を大型林業機械等の重機(以下重機)が走行することによる土壌への悪影響について警告しています。県内では、直接重機を乗り入れられる場所は限られていますし、少々重機が走つた程度で、森林土壌に大きな問題が発生するとはあまり考えていませんでした。

ところが、昨年、皆伐跡地に植栽した苗が集団的に枯れたとの情報が寄せられました。森林研で調査したところ、重機を林内に乗り入れて搬出したことによる土壌の締め固めが原因の一つであることが判りました。

現場の様子

現地の地形は、傾斜が全域15度以下の緩やかな場所です。作業路は開設せず、グラップルローダが林内に入つて材を林道まで搬出していました。その跡地にヒノキを植栽したところ、1年目にまとまって枯れたとのことでした(写真)。グラップルローダの走行跡に植栽したヒノキはほぼ全て枯れていましたが、それ以外の苗はほとんど枯れていませんでした。枯れたところをグラップルローダが何回走行したかは不明ですが、集材範囲は約0.9ha、搬出された素材材積は約400m³でした。

調査内容

走行跡(以下、走行区)と、それ以外の区

大型林業機械の林内走行による森林土壌への影響

森林研究所 ● 古川 邦明

域(以下、非走行区)、及び事業地に隣接し伐採時と同じ林相と思われる林内に対照区を設定し、土壌支持力と土壌の理化学性について調査しました。

◆ 土壌支持力測定

貫入式土壌硬度計を用いて、走行区と非走行区の各11点の土壌支持力を2.5cm毎に深さ60cmまで測定しました。

◆ 土壌理化学性調査

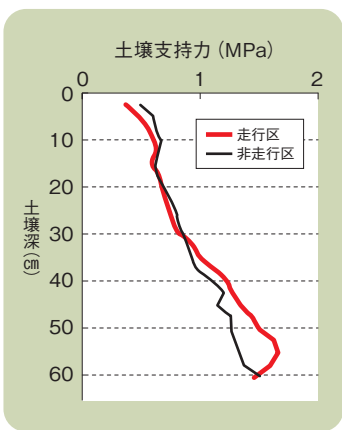
走行区と非走行区の各6箇所、対照区2箇所の土壌深10cmと20cmから土壌を採取し、土壌の密度や、孔隙量など、土壌の状態を計測しました。



▲写真 現地の様子: 写真左側が走行区、右側が非走行区

結果

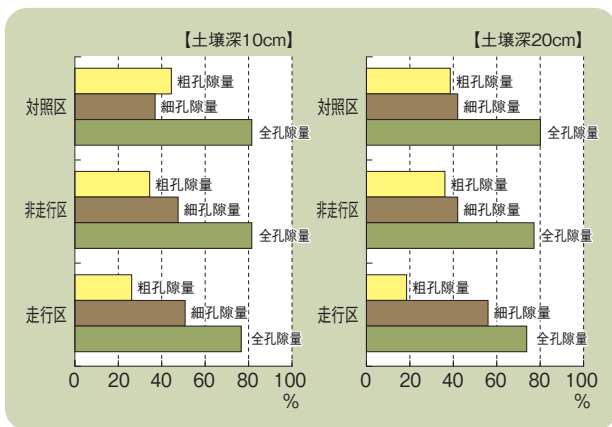
土壌支持力の計測結果を図1に示します。重機の繰り返し走行によって、土壌が締め固められ、走行区では貫入抵抗が大きくなっているだろうと予想しましたが、非走行区との差は認められませんでした。



▲図1 土壌深と土壌支持力分布

土壌の孔隙量の計測結果を図2に示します。走行区では、深さ10cm、20cmともに、粗孔隙が減少し細孔隙量が増加しています。特に走行区の20cm深では、粗孔隙量が非走行区の50%程度となっていました。

土壌の粗孔隙は、雨水の浸透性や土壌への酸素の供給に重要な役割を持っています。重機が繰り返し走行したことにより粗孔隙が減少、苗の成育に必要な土壌条件が



▲図2 孔隙の種類毎の割合

悪化し、さらに昨夏の猛暑も加わつて枯れてしまったものと思われました。走行区では天然の植生も貧弱で、高木性の樹種の稚樹等もほとんど見られませんでした。

おわりに

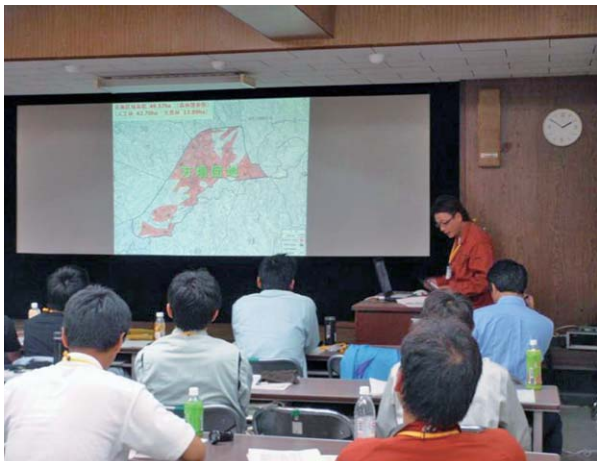
これから路網開設による伐出が主流となると、比較的平坦な森林では重機が林内に入つて集材する事例が増えてくると思われると思います。森林の状況によって、許容範囲は異なると思いますが、重機で直接林内を走行すると、少なからず樹木の成長に悪影響を与えます。伐出作業を行う場合、作業コストだけでなく、その作業が森林に及ぼす影響を多面的にとらえて、作業方法を選択し計画していくことが必要です。

● 詳しい内容が知りたい方は
TEL(0575)331-2585 森林研究所まで

施業プランナー養成基礎研修

～事業予定地発表会～

10月7日に美濃市の岐阜県森林研究所において「施業プランナー養成基礎研修」を受講する研修生18名(林業事業体や林建協働に参画する事業者など)が参加する事業予定地発表会を開催しました。



この研修では、九月までの半年間で、施業プランナーとして必要な基礎的な知識や技術について学んできました。

これまでの研修概要

この発表会は、半年間の研修成果を活かし、研修生自らが森林所有者に営業し集約化し木材販売まで行う計画団地内において、森林所有者に施業同意してもらえらることを目指して行われました。

研修生からは、団地概要、集約化等における現時点での問題点と今後の対応、どのような機械を活用して、どのような方法で利用間伐等の森林施業を行うのか(作業システム)等について発表されました。

- ① 区域内の森林所有者を明らかにし、これらの森林所有者に森林施業を同意してもらうための技法
- ② 森林の現況等を調査する方法
- ③ 目標とする森林状態(目標林型)の設定と目標に向けての伐採木の選木方法
- ④ 森林施業を行うための作業路の計画・踏査・設計
- ⑤ 林業機械の活用とコスト管理
- ⑥ 効果的な丸太の販売方法
- ⑦ 施業提案書等の作成

優良発表内容

今回の十八名の発表の中には次のような優良な発表がありました。

車道崩壊の回避

多くの研修生が作業路開設し、架線を使わない車輛系作業システムを提案するなかで、森林計画図から地形が急峻な危険箇所等を把握し、このような地形を避けて、『タワーヤードを活用した架線系作業システム』を併用する利用間伐を計画して、環境負荷低減に配慮した事例がありました。

具体的な試算による提案

森林内でどのような木が、どの程度の本数あるのかを調査し、どのような木を伐採木として選ぶのか、このときの「作業

工程別の作業経費」と「具体的な販売先まで踏み込んだ丸太販売収入」までを算出している事例がありました。

付加価値を高める造材方法

適期に枝打ちが行われている箇所では、切り口で枝打ち時期が分かるような造材を行うといった工夫もされていました。

このような工夫をすることによって節のない建築用材を製材できることから、森林所有者に一立米あたり六千円以上還元することができる事例もありました。

これらの発表では「作業路開設における危険箇所の把握」、「施業提案書の作成」、「効果的な丸太の販売方法」など本研修で学んできた基礎知識が十分に活用されていると感じました。

研修生全員の発表終了後、研修で講師をつとめた方々から、林内路網の配置、作業システムに関すること、環境面での配慮すべきこと、日報等による管理など今後事業を進めていくための有効なアドバイスがありました。

今後も、研修生が「施業プランナー」として、森林所有者に対して施業を提案し、現場で発生する様々な課題を解決できる能力が身につく研修を実施していきます。

●詳しい内容が知りたい方は

TEL(0575)351-2528

森林整備課(美濃市駐在)まで

平成
23年度

全国治山林道工事等 コンクール表彰式開催される

〓郡上市 林道維持管理部門で林野庁長官賞を受賞〓
〓社日本治山治水協会及び日本林道協会主催の平成23年度
治山林道工事等コンクールの表彰式が開催されました。

林道維持管理部門で、郡上市(日置敏明市長)が、毘沙門〓天野線の維持管理で林野庁長官賞を受賞されました。これは、日常のパトロール、崩土の除去、舗装の補修、冬期の除雪など住民との協働によって日々適切に管理

されていることが評価されたものです。その他の部門においても、工事施工が優秀であったこと、木材使用に係る設計の優秀さが認められ、全国協会長賞を受賞されました。各部門の受賞者は次のとおりです。

治山・林道工事等 コンクール受賞者



榎田俊治 様



栃井政文 様



日置和幸 様



加藤富治 様



日置敏明 様(郡上市市長)

平成23年度 林道維持管理部門 林野庁長官賞

◆ 毘沙門〜天野線の維持管理 …… 郡上市市長 日置敏明 様

第27回 民有林治山工事部門 社日本治山治水協会長賞

◆ 下呂市 水源流域地域保全事業 …… 日産工業(株) 栃井政文 様

第12回 民有林治山木材使用工事部門 社日本治山治水協会長賞

◆ 郡上市 奥地保安林保全緊急対策事業 …… 飛騨農林事務所 榎田俊治 様

第27回 民有林林道工事部門 日本林道協会長賞

◆ 下呂市 坂本〜弓掛線林道開設工事 …… (株)加藤組 加藤富治 様

第12回 民有林林道木材使用工事部門 日本林道協会長賞

◆ 恵那市 三森山(2)線林道開設工事 …… 恵那農林事務所 日置和幸 様

岐阜県森林技術師連絡協議会が森林整備ボランティア活動を実施

県内各地区の森林技術師で組織する岐阜県森林技術師連絡協議会(以下、県連絡協議会)では、平成8年2月2日の発足以来、毎年、「森林技術師大会」と称し県下各地で森林整備ボランティア活動を行っています。

15回目となる今回は、来春に開催される「第41回岐阜県みどりの祭り」の会場となる飛騨市神岡町森茂の「天空の牧場 山之村」において、10月14日に会員等20名により、下刈り作業を行いました。

会場は平成21年に開催された富山市と飛騨市の交流事業「飛越連携森づくり」で植栽された約6km²の区域です。この事業では神通川水系に位置する飛騨市と富山市が豊かな緑資源を次世代につなぐことを目的に、お互いの市の木であるケヤキ(富山市の木)、ブナ(飛騨市の木)の苗を交換して両市長らが記念植樹を行った後、参加した両市民の手により植栽が行われました。

今回は、この植栽されたケヤキ、ブナ、カツラ、ヤマザクラ、マンサクなどに加え、当日に確認した自生のアカマツやカラマツの稚樹も活かすように、雑草の刈り払いを行いました。

作業終了後、意見交換会で今後の活動について意見



▼下刈り作業

を伺ったところ、参加者が年々減少しておりボランティア活動は止めるべきではないという声もありましたが、中には会員の伐採技術を活かした取り組みも行い、内外に対しての情報発信を強化すべきという前向きな意見もいただきました。

今後も地区役員に協力をいただき、活動を支援していきたいと考えます。

●詳しい内容が知りたい方は TEL(0575)35-2528 森林整備課(美濃市駐在)まで【森林整備課 大重隆太郎】



木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位：円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1493回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16・18cm	12,000	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16・18cm	11,200	—	
		4 m	20・22cm	12,300	—	
			24~28cm	13,300	18,500	
			30cm以上	14,300	27,000	
	11月9日 ひのき	3 m	16・18cm	20,000	—	
			20cm以上	19,500	—	
		4 m	16~22cm	20,000	—	
			24~28cm	19,000	41,000	
			30cm以上	25,000	53,000	
第1081回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16・18cm	11,000	—	
			22~28cm	13,000	—	
		30cm以上	13,500	—		
	11月2日 ひのき	3 m	16・18cm	19,000	—	
			16・18cm	19,000	—	
		4 m	20~28cm	17,000	—	
	30cm以上		25,000	—		
	ひめこ	4 m	24~28cm	13,000	—	
			30cm以上	23,000	—	
		5 m	24cm以上	25,000	—	
まつ			24~28cm	6,000	—	
			30cm以上	8,000	—	
くり	4 m	18~22cm	30,000	—		
第1397回 東濃共販所	すぎ	3 m	16・18cm	12,800	13,300	
			20~28cm	12,500	30,000	
		30cm以上元	16,500	50,000		
	11月8日 ひのき	3 m	13cm以下	7,000	8,500	
			16・18cm	22,000	95,000	
			20~28cm	19,000	87,000	
		4 m	30cm以上元	33,000	130,000	
			11cm以下	11,500	14,000	
			20~28cm	21,800	50,000	
	まつ	30cm以上元	31,500	100,000		
6 m		16・18cm	32,800	68,800		
まつ	4 m	22~28cm梁	6,500	14,500		
		30cm以上元	7,000	20,000		

木材市場

横ばい

年の瀬もおしつり、あわただしく日々が過ぎていきます。寒さもひとしお厳しくなってきました。手洗いやせきエチケットなど基本的な予防対策を行い、風邪やインフルエンザにかからないように体調を整えましょう。

【商況】

杉は、引き続き板取り用が応札多数で買い気旺盛、全般的には強保合で推移。松についても優良材を含め、並材も買い気旺盛だが、曲、多節等の欠点材は売りづらい。3m材は直・小曲以外は全くの不振で、その他は2m及び4m造材で出材下さい。杉6mの16~22cmが需要多量にあり。(岐阜)

松は全体に強含みで推移。杉は荷動きも良く安定した動きである。ヒメコは太物が人気だが中目クラスは元気なし。松は相変わらず売り辛い。広葉樹は品薄のため人気で応札も多い。(飛騨)

一般的に弱含みの展開で推移。元木良材と枝打ち材は応札も多く買気旺盛。松は3m特一柱材は強含み横ばい、4m中目材は横ばい、6m長柱材は強含み横ばい。杉4m元木大径材は高値、二番玉並材は横ばい、3m柱材は安定した値動き。松梁材は出品が少量で横ばい。(東濃)

外材市況 (10月期) 1㎡当り (価格単価：100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	カスケード(良材)	281	米榎	ヘム(アラスカ産)	238
	コースト(目荒)	234		米ひば	No.3上

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

特産市場

特産市況

23年8月(単位：t,円)

区分	市場名	入荷量	キロ単価
生しいたけ	東京	492	808
	名古屋	165	724
	大阪	165	782
	輸入	165	259

出展「特産情報」

製品卸売標準価格 (10月期)

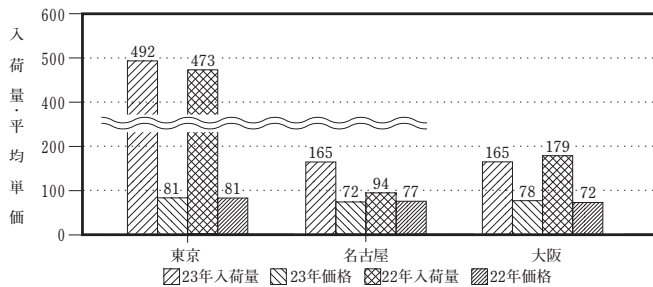
(単位：円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m³当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	50,000	(1,654)	→
	間柱	3000	105	30	1等	45,000	(425)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	63,000	(2,722)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等	75,000	(3,240)	→
W集ウッド材	柱	6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
		3000	105	105	国産5層	52,000	(1,700)	→
		3000	120	120	国産5層	54,000	(2,300)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

8月の生しいたけ市況

単位、入荷量トン・価格円/100g



木材用語一口メモ 仲買い

木材市場の流通構造では、製材業者、市場、問屋、仲買商、大工工務店となっており、この場合の仲買商は市中の木材建材小売業者をいう。流通用語では、卸売商と小売商の間で、卸売商から仕入れた商品を小口にして小売商に販売する中間商人をいう。

●森林・林業関係イベントカレンダー●

開催日	行事名等	内容等	場 所
			申し込み(問合せ)先
12月10日(土)	ぎふエコサミット 2011	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化防止に向けた身近な取組みを県民の皆さんに紹介するイベント。児童・生徒による活動発表やワークショップ、フリーマーケット、企業団体の活動展示など ●参加費：無料 	ヒマラヤアリーナ(岐阜市藪田南2-1-1) 清流の国ぎふづくり推進課 TEL 058-272-1111(内2697)
12月17日(土)	ぎふ清流 未来の会議	<ul style="list-style-type: none"> ●「清流」をテーマとして、環境学習成果やNPOの活動事例の発表会、シンポジウムほか、子どもから大人までが学び、楽しめる展示・ワークショップなど ●参加費：無料 	ふれあい福寿会館 (岐阜市藪田南5-14-53) 清流の国ぎふづくり推進課 TEL 058-272-1111(内2697)
1月19日(木)~ 1月20日(金)	木材加工用機械作業 主任者技能講習	<ul style="list-style-type: none"> ●講義時間：19~20日 8:30~17:40 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：16,800円(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当：仲井 TEL058-275-0192 FAX058-272-3858
1月24日(火)	造林作業の 作業指揮者等 安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講義時間：8:30~16:00 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：10,300円(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当：仲井 TEL058-275-0192 FAX058-272-3858
1月26日(木)~ 1月27日(金)	リスクアセスメント 担当者安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講義時間：26日(林業)9:20~17:30 27日(製造業)9:20~17:30 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：11,000円(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当：仲井 TEL058-275-0192 FAX058-272-3858
2月 8日(水)	平成23年度 林業普及活動実績発表会 および森林研究所研究・ 成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> ●内 容：各地域の林業普及活動の取組事例および森林研究所の研究内容を紹介します。 ●時 間：13:00~16:30 	岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市曾代88) 県庁森林整備課 技術支援担当 担当：井戸、土屋 TEL 058-272-8491 FAX 058-278-2706 岐阜県森林研究所 担当：水谷、田中 TEL 0575-33-2585 FAX 0575-33-2584

平成23年10月の山林協会会議等参加活動報告

年月日	会議等活動内容	開催地等
平成23年10月 6日	林業団体と林業関係議員との懇話会	岐阜市 岐阜県水産会館
平成23年10月 8日	自由民主党再生への集い	岐阜市 産業会館
平成23年10月15日	民主党岐阜県総支部連合会 要望ヒアリング	岐阜市 ワークプラザ岐阜
平成23年10月21日	国際森林年・水源林造成事業創設50周年記念植樹祭	高山市 清見町柴野侯字石仏洞
平成23年10月22日~23日	森と木とのふれあいフェア2011	岐阜市 岐阜県庁前広場



2011年は国際森林年ですが、2012年は国際協同組合年になります。

世界の抱える貧困、金融・経済危機、食糧危機、気候変動をはじめとする現代社会の重要課題に向けて、協同組合が大きな役割を果たすことを期待して、2009年12月の国連総会で2012年国際協同組合年は決議されました。

国際協同組合年は、協同組合の社会的役割と価値を広く認知させるとともに、協同組合を一層発展させることを目的としています。

私たち岐阜県森連は、農協(中央会、全農、酪連)、生協の県団体組織と平成3年度から連携し、今年も7月に講師を招いて研修会を開催し、岐阜県の協同組合間提携の経過と今後について、国際協同組合年に向けて「協同組合の新たな役割」について、他団体とともに皆で学びました。

国際協同組合年ICTのロゴは、下記協同組合運動の7原則を示しています。(①自発的で開かれた組合員制、②組合員による民主的管理、③組合員の経済的参加、④自治と自立、⑤教育・研修・広報、⑥協同組合間協同、⑦地域社会への関与)



【「森林のたより」編集委員 県森連 山下篤志】



1月1日発行

1月号
予定

新年あいさつ(山林協会会長)
 新年あいさつ(岐阜県知事)
 山の歳時記(77)
 年男・年女の想い
 森林文化アカデミーの紹介(31)
 山のおじゃまむし(246)
 林業グループコーナー
 地域の人コーナー
 緑化少年団活動発表
 森の楽園PR(22)
 健全で豊かな森林づくりプロジェクト(55)
 恵みの森づくりコンソーシアム活動
 企業との協働による森林づくり活動
 研究コーナー
 普及コーナー
 ぎふの木PR大作戦活動状況
 市況情報
 掲示板

